

「本山寺山森林づくりの会」活動報告

武田壽夫(文、写真)、倉谷邦雄(写真)、山 國 (写真)

日 時：2018(平成 30)年 1 月 4 日(木) 9:30～15:30

気 象：天候=晴 (12 時の気温：-1～-2℃)

活動エリア：45 林班に-03

活動内容：モニタリング調査区とその周辺の整備

参加者：石原順子、斧田一陽、小櫃徹夫、倉谷邦雄、河野直子、武田壽夫、宮本 廣、山 國、

(計 8 名)

<あらたまの歳の初めの……>

今日は H30 年の森林づくりの初日、自然歩道ではリスが横切る。晴天・無風、道路の凍結もなく年明けの作業にふさわしい天気。身支度して先ずは毘沙門天を安置した本堂で安全祈願、清酒の奉納。そのあと、百済住職に年賀のご挨拶。

さて、今日の作業は「45 林班に-03」のモニタリング調査区とその周辺の林床整備など。寒中、気を引き締めて出発する。活動地は小屋同様に薄く雪が残る。

<サア、仕事初め>

位置は「45 林班に-03」のほぼ北端、谷を挟んで直線約 300m の向う側(約 50m の標高差)は作業小屋だが、これは木々に遮られて今は見えない。ここの調査区は南に下りる里道の谷側に設定していて植林地のほぼ上端である。里道の辺りは広葉樹が優勢で、昨秋の台風禍のせいだろう、倒木・落枝が重畳。8 名が 2 班に別れ作業を始める。

調査区組は傾斜地で足下を注意しながら 10m を越える伐倒残置木の整理と針葉樹の枝切り、作業道の改良に取組み、里道組は散乱した木々の整理に取り掛かる。写真の通り、調査区組はもっぱら玉切りと棚積みの方仕事を中心、一方の里道組は密生した若い木々に落枝が引っ掛かるなど作業は「難行苦行」、難航したようである。それでも、双方で約 0.3ha の整備を終えることが出来た。また、作業道は将来自然観察路にも仕上げたいもので、急傾斜箇所を階段づくりなど約 10m を拓く。仕事初めと言うことで、早目に小屋に引上げ、「ピーコック松が丘店」で調達した「栗善哉」を温めて頂く。寒中・筋肉労働後、一同「舌つつみ」。正月気分を新しくする。折しも粉雪がチラつき始め、これが陽を受けて輝き、一寸した”ダイヤモンド・ダスト”。

<山だよりー本山寺の初春>

写真は「勸請懸」を見上げている一景、住職を囲んだ庫裏門前の一枚、それに石燈籠に供えられた小さい雪だるま。本山寺の勸請懸は、安岡寺、麓の神峰山寺と並んで「北撰 3 山の勸請懸」として「知る人ぞ知る」で、仏の功德を願う本来の意味を持つものだそうである。また、仏弟子となるための「潔斎」の印なので、一同、今日から高僧の「お弟子さん」。鋸を手にしたの「入山」も功德の一つ、皆さんも如何？

【本山寺参道の新しい「勧請懸」】



【百済住職(当会顧問)に「新年ご挨拶」】



【調査区：チェーンソーの活躍】



【調査区組：腕に堪える「高枝切り」】



【調査区組：作業前】



【調査区組：作業後、左奥は階段が必要な場所】



【調査区組：木階段づくりに着手】



【調査区組：階段の完成】



【里道組：作業前(この倒木を片付ける)】



【里道組：作業後(左画面の倒木等を処理、棚積み)】



【里道組：作業前】



【里道組：作業後(左の地点を違う位置から撮影)】



【斑に雪が残る中での「お昼時」】



【里道組：倒木・落枝を整理して「前進」①】



【里道組：倒木・落枝を整理して「前進」②】



【里道入口は新名神残工事の為「制止柵」を新設】



【今年も「ご安全に」(手には「善哉」のお椀)】



【おまけ：雪だるまのお供え】

